



## 分科会 9 感染対策に求められる薬剤師の役割

### W-09-02 地域における感染症対策の概要～行政の取組を中心に

こばやし よしきよ  
小林 良清

長野県健康福祉部 健康長寿課長

#### ■感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）

##### ●感染症の種類

- ・ 感染性、重篤性が高い順に1類から5類まで区分
- ・ 新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症（後2者は現在該当なし）もある
- ・ 結核予防法も感染症法に統合され（結核は2類）、個別感染症の法律が全て廃止

##### ●届出等の対応

- ・ 届出、入院、就業制限、健康診断、消毒・建物立入制限等の措置等
- ・ 生物テロ防止等のため病原体管理体制を強化
- ・ 動物由来感染症に関する輸入制限、保持制限等

#### ■行政による感染症対策の概要

##### ●体制・基盤整備

- ・ 感染症予防計画、業務マニュアル等の策定
- ・ 対策本部、専門家会議等、行政内外組織体制の整備
- ・ 指定医療機関（特定、1種、2種）等の医療体制確保

##### ●予防接種

- ・ 市町村が1類疾病（麻しん、風しん等）、2類疾病（インフルエンザ）の定期接種を実施
- ・ 09/10 新型インフルエンザワクチン接種は国事業（新臨時接種とする法律改正案提出中）

##### ●情報提供・普及啓発

- ・ 感染症とその予防を住民に情報提供・普及啓発（ホームページ、報道機関、出前講座等）
- ・ 医療法に基づく立入検査にて院内感染対策の確認
- ・ 保健、医療、介護・福祉関係者に対する研修会等の開催

##### ●感染症発生動向調査等

- ・ 感染症法に基づく全数届出（1～5類等）・定点届出（5類）を取りまとめ
- ・ 現在、結核以外に1類・2類感染症（SARS、H5N1など）は国内発生なし
- ・ 全国集計も含め医療機関、住民に情報提供
- ・ 薬剤耐性菌感染症は、五類全数把握として VRSA 及び VRE、五類定点把握として PRSP、MRSA、MDRP
- ・ 症候群サーベイランスによる新興感染症の早期探知も実施

##### ●感染症流行予測調査

- ・ 感染症に関する住民の抗体保有率を調査し、感染症の流行を予測

##### ●感染症発生時対応

- ・ 3類までの患者は全て、4類・5類は集団感染事例等で個別対応
- ・ 保健所が患者等面接を踏まえ、周辺関係者等に積極的疫学調査及び健康診断等を実施
- ・ 法的措置を含め、感染源の追究と感染拡大防止を図る

#### ■薬剤師業務に関連する事項から

##### ●新型インフルエンザ

- ・ 今後の病原性変化、新型ウイルス（H5N1等）出現等に備えて検証等が必要
- ・ 発生初期に対応する医療機関、流行時の多数患者に対応可能な医療体制が不可欠
- ・ 医療機関では患者の受入、診療、入院などで実地訓練を
- ・ ワクチン生産量が不十分な段階での優先接種者、流通・配布方法等も事前調整が必要
- ・ 学校休業、行事の自粛、医療機関等の業務継続計画（BCP）などの社会的対応も課題
- ・ 国も現行の行動計画、ガイドラインの見直しに着手（柔軟な対応も課題）

##### ●予防接種

- ・麻しん・風しん：1歳、就学前年度に加え、平成20年度から5年、中学1年、高校3年に拡大
- ・09年度接種率が順に93.6%、92.3%、85.9%、77.0%と低く、啓発が重要
- ・子宮頸がんワクチン、肺炎球菌ワクチン等の法的対応を現在、国が検討中
- 麻しん
  - ・「麻しん輸出国」の汚名返上をめざし、1人の患者発生にも迅速に対応
  - ・麻しんの免疫が不確実な医療従事者は、追加の予防接種を
- 医療機関立入検査における院内感染対策の確認
  - ・院内感染対策指針策定、感染症院内発生状況把握等を保健所が立入検査で確認
  - ・環境細菌測定等の過剰対応、手袋の使い回し等の油断・不適切対応が混在
  - ・平成15年度厚労科研「医療施設における院内感染の防止について」等で根拠ある対策が必要
- 結核
  - ・平成20年の新規患者24,760人、死亡2,216人と未だに我が国最大の慢性感染症
  - ・高齢、糖尿病等の基礎疾患等がリスク因子で患者が多い
  - ・受診、診断ともに遅れ、集団感染も散見（医療機関内事例も多い）
  - ・医療機関は、患者のトリアージ・早期診断、発生時の迅速対応が必要
  - ・薬剤師にはDOTS（直接服薬確認法）による確実な治療の推進で保健所に協力を
- HIV/AIDS
  - ・日本男性を中心に患者・感染者が増加し、引き続き啓発活動が重要
  - ・患者に対する確実な服薬の支援、高齢患者への福祉サービスの提供等が課題
- 集団発生の早期探知（麻しん、結核、ノロウイルス、腸管出血性大腸菌感染症、食中毒、・・・）
  - ・医療福祉施設、学校等における有症者の把握を確実に
  - ・患者・利用者に加え従事者の健康管理、体調不良時の早期対応を怠りなく
  - ・集団感染を探知したら保健所に相談・連絡を（発生ではなく対応が問われる時代）
  - ・家族、来訪者等への協力要請も不可欠